越谷市内唯一の 「庚申講」 の銘文のある「手水石」

秦野 秀明

いる。 東越谷香取神社(越谷市東越谷一―一五―一三)境内に存在する「手水石」には、以下の銘文が刻まれて

※十三名の名前の解読は加藤幸一氏による。

が奉供養庚申講

武州小林観音寺

孫右ヱ門 (兵衛ヵ)

、拾少 兵衛

左ヱ門

源左衛門

手水石

瀬兵衛

戈兵衛

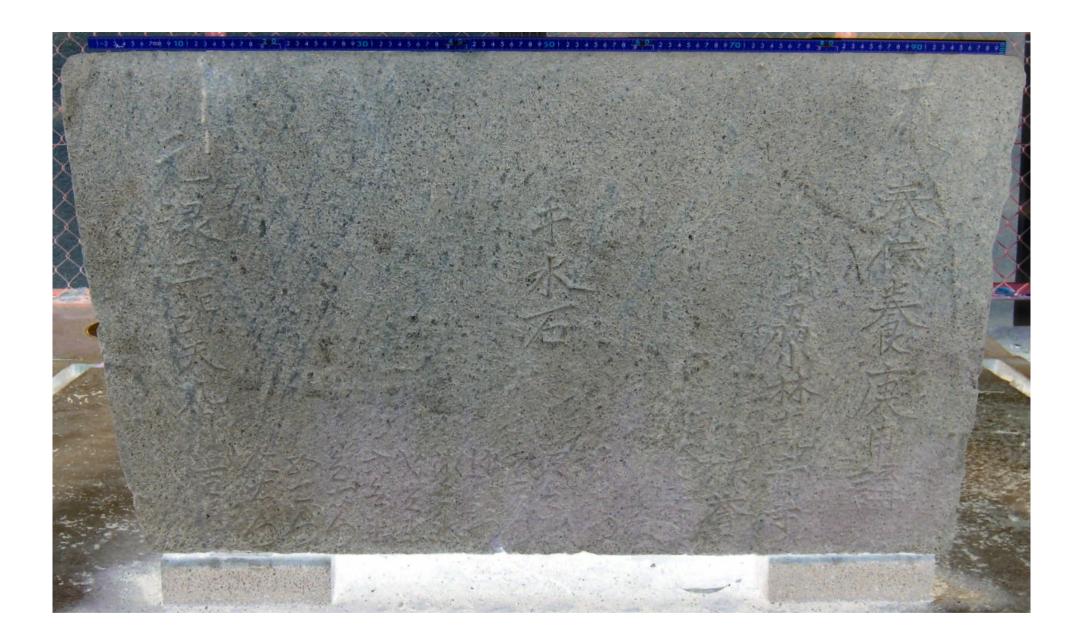
]兵衛

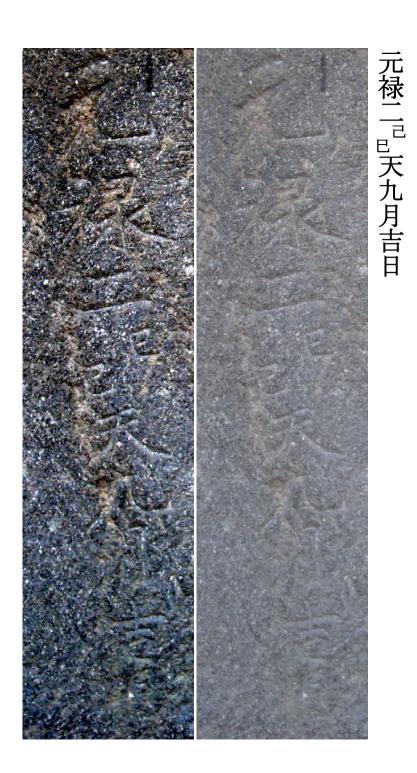
仁右ヱ門 兵右ヱ門

元禄二三五天九月吉日

寺」と称し、かつて当社の北一○○メートルの所に居住していたというので、この辺りがその跡地と思われ 社には、 『新編武蔵風土記稿』には、「観音寺 無量山と號す、本尊十一面観音を案ず、香取社」と記載されている。 「手水石の銘文には、 「観音寺は現存せず、 「十一面観音菩薩」 明治七年に廃寺となっている。 0) 「種子(種子字)」である「キャ (ka)」が刻まれ、 氏子の観盥(みたらい)家は屋号を「観音 『埼玉の神

ゆえに、この「手水石」は、 本来「観音寺」に存在していたものと推測される。 る」と記載されている。





庚申講

